

日本文学史の『古典』とは？

ヨーロッパ文化史において「古典」という語は、はっきり或る時代を指すものとして使われているにもかかわらず、それをどう定義するかについてさまざまな考え方があります。そのため、ヨーロッパの言語で日本文学史について語る時には、古典というのは奈良から平安という時代を指すもの、あるいは、場合によっては前近代の文学一般を指すものとされています。しかし、日本文化史のなかでそもそも「古典」とは何なのでしょう。古典的な作品とは何でしょうか。古典にはどのような価値が結びついているのでしょうか。特定の時代を、一群のテキストを、あるいは、古典という語で呼ばれるのにふさわしいような理想を指すためには、「古典」という語に代わるものとしてどんな日本語があるのでしょうか。

講師：ユディット・アロカイ (ハイデルベルク大学日本学研究所教授)

コメンテーター：吉田耕太郎 (大阪大学文学研究科准教授)

山本嘉孝 (大阪大学文学研究科講師)

司会：飯倉洋一 (大阪大学文学研究科教授)

2017年

10月12日(木) 14:30 ~ 17:00

文学部中庭会議室

(使用言語は日本語、質疑応答はドイツ語・英語も可)



主催：大阪大学文学研究科「グローバル日本研究クラスター」

共催：ハイデルベルク大学日本学研究所 ISAP (国際共同研究教育パートナーシッププログラム)

連絡先：浜渦辰二 (内線 2127、cpshama@let.osaka-u.ac.jp)